

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671300236
法人名	社会福祉法人 百合砂
事業所名	グループホーム 百合砂
訪問調査日	平成20年3月1日
評価確定日	平成20年3月31日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4671300236		
法人名	社会福祉法人 百合砂		
事業所名	グループホーム 百合砂		
所在地 (電話番号)	西之表市西之表6095番地		(電話) 0997-22-1330
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号		
訪問調査日	平成20年3月1日		

【情報提供票より】(平成20年2月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	8人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
------	--------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,750 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月7日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.2歳	最低	50歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海に見える高台に位置し、同一法人の介護老人保健施設、通所介護、居宅介護支援事業所等と隣接して建てられたホームである。リビングや各居室の間取りが広く取られ、障子風に作られた居室の扉は各部屋毎に違いがあり、個性的で落ち着いた雰囲気となっている。庭園のように整備された裏庭では、入居者が自由に過ごすことができる。職員は、外部研修や法人全体での研修、さらにはホーム独自の勉強会で熱心に研鑽し、認知症ケアに前向きに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、重要事項説明書への理念の明記や苦情受付窓口担当者の明記が指摘されたが、同説明書の記載内容を改善し、ご家族等への説明も行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目について職員間で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。自己評価については職員全員で意見を出し合い、日ごろのケアを振り返る機会として取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者のご家族をはじめ近隣住民、地域包括支援センターや行政の職員等が参加して、3ヶ月に1回のペースで開催している。会議では、サービスの実際や行事等についての報告、意見交換が行われ、ホームの運営に反映されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置している。重要事項説明書には苦情受付窓口担当者を記載し、訪問時や行事の際にも、ご家族が意見や不満、苦情を言いやすいように声をかけている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の小学校の運動会や卒業式、敬老会やゲートボール大会の見学等を行うことで、地元の人達との交流を行っている。今後、地域の幼稚園からの慰問も予定されており、双方向での交流が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合い作成された理念が、玄関や和室に掲げられている。		これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を盛り込むことを検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員に理念を配布している。また、月1回開催されるミーティング時に、理念に基づいた話を管理者が行い、実際のケアに活かされるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校の運動会や卒業式、敬老会やゲートボール大会の見学等を行うことで、地元の人達との交流を行っている。	○	地域の幼稚園からの慰問も予定され調整中であるようなので、今後は、双方向での交流が継続して行えるように努めていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善項目について職員間で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。自己評価については職員全員で意見を出し合い、日ごろのケアを振り返る機会として取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者のご家族をはじめ近隣住民、地域包括支援センターや行政の職員等が参加して、3ヶ月に1回のペースで開催している。会議では、サービスの実際や行事等についての報告、意見交換が行われ、ホームの運営に反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム側の窓口担当者を決め、必要に応じて市の担当者と連携を持てるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真入りのひだまり便りを毎月1回送付し、ご家族に日々の暮らしぶりを報告している。また、必要に応じて電話連絡を行っている。金銭管理については、ご家族の訪問時に確認してもらっているが、定期的な報告は行っていない。	○	遠方でなかなか訪問できないご家族もあるので、定期的に金銭出納状況が確認できるように工夫していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。重要事項説明書には苦情受付窓口担当者を記載し、訪問時や行事の際にも、ご家族が意見や不満、苦情を言いやすいように声をかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による入居者のダメージについて、理解はなされている。昨年の異動の際は、2ヶ月間の引継ぎ期間を設けるなど、影響を最小限にするための配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行う勉強会やホームの勉強会には全職員が参加し、また外部で行われる研修会にも積極的に参加し、職員のスキルアップを図っている。		ミーティングに併せて行われる勉強会等において、年間計画を作成して計画的な研修が行われることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームとの交流はあるものの、他の同業者とのネットワーク作りが充分ではない。	○	同業者とのネットワーク作りや勉強会、相互訪問等を行い、サービスの質がさらに向上することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、事前にご家族や本人に見学に来ていただくように働きかけている。また、急な入居で本人の不安感が強い場合は、ご家族や知人の面会の頻度を多くしてもらうよう協力を求めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から、野菜作りやお菓子の作り方、日常生活のマナーやしきたり等を教えてもらい、共に暮らしながら喜怒哀楽を共有して支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族や本人、それまでに関わった施設職員やケアマネジャーからの情報をもとに、希望や意向の把握を行っている。意向が具体的に言えない方の場合でも、本人の様子や動作から推測しながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時には、生活歴等の情報収集を行い介護計画が作成される。入居後は、担当職員が中心となり、介護計画の実践状況の確認と評価が行われる。ミーティング時に介護計画についての検討も行われており、職員からの意見も計画作成に反映されやすい環境にある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定の有効期間にあわせて見直しを行うが、入居者の状況や必要に応じて、随時、必要な関係者、スタッフと話し合い、現状に即した計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅への外出や外泊、通院や墓参り、ご家族のホームへの宿泊等、ご家族の状況や要望に合わせた柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望をもとに、かかりつけ医を決めている。協力医療機関との連携も密になされており、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族や入居者の希望を聞き、かかりつけ医等と話し合いを行った上で重度化した場合の対応を決めている。決められた方針は職員全員で共有できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の生活歴等を考慮した上で、言葉かけや対応に配慮がなされている。カルテや記録等の個人情報の取り扱いについても、カーテンで目に触れないようにするなど、保管方法に工夫が見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必ず必要な事は職員誘導で行っているが、基本的には決まり事は無く、一人ひとりの希望やペースが尊重された支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園での野菜作りや買い物への同行、食事の準備や後片付け等、入居者それぞれの能力や希望を取り入れながら、食事が楽しみなものになるような働きかけを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴できる体制があり、チェック表で入浴回数の確認が行えるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日めくりカレンダーを毎日めくことや掃除等、一人ひとりが役割を持ち、張り合いのある生活が送れるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物の同行等、その日の希望や天候に応じて外出が行えるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解され、入居者が外出されそうな気配があるときには、職員と一緒に出かけるようにしている。安全の為に浴室のみ施錠しているが、それ以外の場所は日中の施錠は行われていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災想定避難訓練を定期的に行っている。地域の方には、運営推進会議の際に協力を依頼している。緊急時に備えて、カセットコンロや非常食を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、チェック表を用いて毎日記録されている。栄養バランスについて、おおよそのカロリー等は把握している。献立は、同一法人の介護保険施設の献立を参考にしながら支援している。		実際に提供された献立内容を、定期的に栄養士にチェックしてもらい、専門的な助言を受けられるようにしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえるように、花や写真が飾られていたり、入居者がくつろげるようにソファを設置したりしている。入居者にとって、不快な音や光がないように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と話し合いが行われ、ベッドや箆笥、鏡台や位牌、仏壇、ご家族の写真等、使い慣れたものや馴染みのあるものが持ち込まれ、入居者が安心して落ち着いた生活を送れるように工夫している。		